

エゾマツ

北海道ボランティア・レンジャー協議会

第16号

発行責任者 河村 千束

今年も美しい自然に親しもう

ボランティア・レンジャー
協議会副会長 大友 健

1991年の新たな年を迎え、会員の皆様には、益々ご壮健で希望に満ちた年頭の事とお察し申し上げます。

本年は、新春早々から、イラク国とアラビア湾岸の様相がきびしくなり、世界の人々が、見守り心配しているうち、とうとう戦争が始まりました。また、近くは、ソビエト連邦のバルト海三国にも騒動が起こり、世界中が騒がしくなってきました。

それらが、我々国民生活においても、いや世界の国々にも、種々影響するところが多く出はじめ、今後どのようにしていくのか、関心を高めながらの毎日になりました。

現代の戦争は、自然界を破壊させる結果になるということを、世界の指導者は当然考え、平和に努力を重ているようですが、時間が経過していくなかで、我々の未来に、重大な危機に直面するおそれさえ感じ始めました。

私共、自然観察を通じ、自然の恵みのありがたさ、そして自然のなかでの生物の共存を、常日頃唱えているだけに、毎日のニュースに、平和解決を祈る気持ちで、一杯のことと思います。自然を大切にしよう。自然を子孫に残そう。今こそ我々は、この自然は子孫からの借りものだという意識を強く感じながら、本年も大いに自発的な、レンジャーとしての活動をしようではありませんか。

私は、年頭に「自然保護憲章」なるものに目を実は初めてとおしました。

(財)日本自然保護協会が国民会議を起し、昭和49年6月5日、今の兩陛下が皇太子同妃殿下として会議に臨席され、主催者は声高らかに自然保護憲章の制定を宣言されたことあり、この制定を記念して、毎年6月5日を「自然保護憲章の日」として、普及に努めているとも書いてあった。

人間は、日光、大気、水、大地、動植物などとともに自然を構成しているそれらより、限らない恩恵とともに、多くの試練も受け、その反省を生かしながら、文化、生活の向上をなし遂げてきた点をふり返って見ると、現在はどうでありましょうか。

皆さんご承知のとおり、大気の汚染、河川の汚濁、みどりの消失など、自然界においての生物生存の諸条件がいたるところで、均衡の点より見ると破られていることが多くなりつつあります。当然ながら、自然の厳肅さに目ざめ、自分を尊び調和を失うことなく、節度ある利用活用につとめてこそ、文化向上の時代を築くことと、今では国民だれしもが熟知しているはずなのです。

私利欲的な行為を強く規制する行政も、次々と対応の施策を打出し、チェック体制に、むしろ民の声を取り入れようとしている点が多くなり、喜ばしい限りであります。

自然保護という考え方は、ただ緑や自然景観を維持するということだけでなく、自然の恩恵を十分に利用し、文化と生活の向上を何時までも続けるものでなけ

ければならない点では今でも変わりなく、自然界においては、生まれ出たものは、いずれ朽ち果てる、生命が朽ちるのは宿命であり朽ちて新たな生命の誕生があり、生命の力が受け継がれる条件を人間が手を出し、よりすばらしくする努力を言うのではないのでしょうか。

無計画な森林の乱伐や、自然のルールを無視した開発行為は、生命の連鎖を断ち切ってしまうだけに、行政と共に、私共は鋭くこの点を批判していくべきだと思っています。

私は機会あって、開園間もない当別町民の森で、自然教育振興財団の園生に、自然解説をしながら、中秋の林内を歩き展望のきく丘陵で小休止をしたとき、集団の少年達に、樹々の色づきとその美しさを「生命有るかぎり」と言う言葉を入れながら、自然の神秘性と、森の効用を話したものでした。

終わると少年の1人が、私にも、仲間にも大きな感動を与える質問をしてくれました。

「先生は、山の木々が、生命ある限り、この美しさを見せてくれると言ったねこの生命は、木を伐らなければ続くでしょう。親木があればこそ種子になり続くのですね。細い小さな木々の山こそ大切なんだね」と言う少年の瞳は輝いて見えたのです。

私は、この財団の園生だからでなく、日常の自然との親しみより、理解のある言葉になったのではないかと思ひ、今日の1日のレンジャーとして、大きな喜びを感じたのでした。その日より「生命ある限り」が、「生命を続けるために」となり、自然保護の精神に、私は燃え続けようと誓いを新たにしました。

美しい自然を愛する人々が、1人でも多くなるよう、その環境づくりと、橋渡し役として、今年も私達は精進をしていきたいと思います。

お知らせ NO1

「クマゲラについて勉強しませんか」

野幌森林公園を守る会で、1991年3月9日(土)～10日(日)の両日クマゲラをキーワードに「森を守る」「自然を守る」問題を広く考え、みんなで話し合っていこうと、次のように皆さんの参加を呼びかけています。

(第1日)

3月9日 13:30～17:25、札幌市婦人文化センター(札幌市中央区大通西19丁目電話011-621-5177)で、基調報告「野幌森林公園のクマゲラ」これまでの活動と観察記録・・・松山事務局長、講演「本州のクマゲラ」・・・小笠原秋田大学教授、「北海道のクマゲラの生息分布とその変遷」・・・藤巻帯広畜産大学教授、「クマゲラの好む森」・・・有沢東京大学助手、トーク「クマゲラの棲める森を考える」その他懇親会などetc・・・

(第2日)

3月10日 9:00～13:00 北海道開拓記念館前集合、「クマゲラの一斉調査」(野幌森林公園内)

新春を迎えて

北海道保健環境部自然保護課長

堤 範之

ボランティア・レンジャーの皆さん、明けましておめでとうございます。
この新しい年が皆さんにとって、より良い年でありますよう心からお祈り申し上げます。

昨年は、自然保護を始めとした環境行政にとりまして、大へん有意義な年ではなかったでしょうか。スウェーデンのカール16世グスタフ国王陛下をお迎えして環境問題に関する国際シンポジウムが開催され、又、アンカレッジでの第3回北方圏会議において環境問題を中心とした共同声明が出されるなど、更には平成5年に第5回ラムサール条約締約国会議が釧路市で開催されること

が決定されるなど、国際的な動きが大きく見られた年でありました。
このような自然保護行政をとりまく大きな変化の中で、「考えは地球規模で、行動は足元から」という考えをもとに、昨年はボランティア・レンジャー育成研修会の充実を図ってまいりました。

昭和61年に発足したこの研修会も今年で7回を数え、312名の方々が全道各地でご活躍いただいている訳ですが、北海道といたしましても皆さんの活動の場を広げるため、昨年からは各支庁において、「自然教室」を22回開催し、沢山の方々の御参加をいただきました。私共にとりまして大へん心強く、心から感謝申し上げたいと存じます。

また、ボランティア・レンジャー協議会も積極的な活動を展開され、昨年9月に初めての独自の企画により実行された「野幌自然観察の集い」が77名の参加を得て成功のうちに終わったことは、協議会にとって新しいステップに入ったものと感慨を深めているところであります。

いま、時代は、地球の温暖化や、酸性雨や、オゾン層の破壊など地球環境の悪化が大きな問題となっており、地球規模で、自然と調和した緑豊かな地域を創造し「人間と自然の共生」を目指し自然環境保全への取り組みを更に積極的に進めていかなければなりません。道民1人1人が真剣に考えていかなければなりません。

そういうことからリーダーとしての皆さんの活動はますます重要で、社会的意義の深いものになると確信いたしております。

豊かで安らぎのある社会を築きあげていくため、本年も全力を挙げてがんばって参りますので、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、ご多幸をお祈りし年頭の挨拶といたします。



喜びを高め、理解を深め

北海道野幌森林公園事務所公園管理部長

油津 雄夫

「ずいぶんさまざまな木や草があって、森の遊びも楽しいネ」
「耳を澄ませば、静かな中にも、沢山の鳥の声、虫の声が聞こえるんだネ」
「森は、空気がおいしいだけでなく、身体や心にすばらしい働きをして
くれているんだネ」

「来てよかったネ。また来ようネ」・・・・・・・・・・

ボランティア・レンジャーの皆様の指導よろしきを得て、毎月行われる野幌森林後援事務所の観察会に参加した方々が、楽しみながら森林のすばらしさについて理解を深めて、くり返し訪れるきっかけを作っていたいただいていることは、まことにありがたいことであります。

ボランティア・レンジャー協議会主催の「野幌自然観察の集い」が昨年9月に行われ、70名余の方々が親子仲良くネイチャーゲームなどを楽しまれました。人類の未来を担う若い方々、幼い方々が森林に遊ぶ喜びを高め、自然について理解を深める催しを開いていただいたことに対し、深く感謝いたしております。

おかげさまで、最近の観察会の参加者は大幅に増えておりまして、例年、参加者のきわめて少ない12月にも30名近くの方が、冬木の魅力をメインテーマとして、森林観察を楽しまれました。四季折々、野幌の森林を訪れる人も近年しだいに増え、平成元年には25万人を越えました。(森林公園全体では、ここ3年間約100万人)

紅葉を愛でる人々でにぎわう昨年10月7日(日)、野幌森林公園の森林の主な4つの出入口で行われた250人のアンケート結果(身近な自然地域の活用マニュアル作成の基礎資料の1つ)では、

- ①〔利用頻度〕 Aよく来る45%、B時々43%、はじめて12%。
- ②〔来園目的〕 A森林浴76%、観察14%、(うち森林浴と重複4%)
- ③〔今後どのようなものものがあつたら、もっと公園を利用されますか〕
A観察指導員がほしい24%、B自然観察会、探鳥会をしてほしい42%、。あわせて66%の人が自然観察の指導を要望しておられます。

森林のフィトンチッドに富む清浄な空気と深い静けさ、小鳥のさえずり、梢をわたる風の音、木々の香り、鮮やかな緑など、森のふんいきは、私達の身体の細胞を生き活きとさせ、精神的なやすらぎを与えてくれます。

都市生活のストレスを癒すために、野幌の森林で森林浴をする人々も、森林、自然について理解を深めるチャンスを求めておられることがうかがえます。

皆様方には、いろいろお忙しいことと存じますが、このニーズに応じて、一人でも多くの方が森林に遊ぶ喜びを高め、森林のすばらしさについて理解を深めるように、折にふれてなお一層のご指導いただければ幸いです。

ベルシャ湾岸戦争が始まりました。大規模な自然環境破壊、資源の浪費、人命の喪失——この愚行が一日も早く終結しますようお祈りいたします。

世界人類が平和でありますように

”ボランティアレンジャー”活躍の場を

旭川市 藤井三郎

昨年春48年余の仕事人生を65才の誕生日とともに終え、100%自分の時間となる日々を迎えた。

今まで仕事専一にやってきた反動のようにゴルフ・ドライブ・スキー・旅行・釣り等々どん欲なまでに楽しんで、あっという間に1年がすぎようとしている。

しかし、毎日を楽しく過ごしながら「これでよいのだろうか」という思いがよぎる。

長い間の仕事人生では、大なり小なり”社会あるいは公共のため”にやってきたという自負と満足感があつたが、いまはそれが全く欠落していることに不満と寂しさを覚える。

周囲を見ても長い間いろいろの分野で働き、技術・知識を持ち、健康にも恵まれた熟年者が多い。

これらの人々が経験を生かした分野にボランティアとして活躍することができれば、これからの高齢化社会への対応としても一石二鳥になることは明かである。

私も多年森林関係の仕事に従事し、山野を抜渉することに喜びを感じるタイプである。幸い数年前にボランティアレンジャーの講習を受け、将来はこの面で多少でも経験を生かせるかと期待をもっていた。

しかし、ここ数年関心をもってみているが、ボランティアレンジャーとして力を発揮できる場はあまりないようで、講習修了者の方々の活動も自己研修が多いように見受けられる。

一昨年機会があつてアメリカネバダ州の森林局を視察した折り、たまたま1人の女性が数人の男女を案内して説明をしている光景を見受けた。

聞けばこの女性はボランティアで必要に応じ随時このようなことをしており、このほかにも林内の歩道作りまでも数多くのボランティアによって行われているとのことであつた。

日本ではボランティアについての歴史・意識はアメリカとは異なっており、分野も限られている傾向がある。

しかし最近の社会情勢からボランティアを必要とする分野は増加すると思われ、それには行政機関がこの面に力を入れることが必要であろう。

また「北海道ボランティアレンジャー協議会」としても組織を通じ関係官公庁への働きかけなどによりレンジャー活躍の場を求めることはいかがであろうか。

会員の皆様のご意見をお聞きしたいと思います。

「新年度の北海道ボランティア・レ
ンジャー協議会主催の自然観察会」

2月2日の役員会で、昨年9月に実施した自然観察の集いと同じよ
うなかたちで平成3年には、6月9日(日)と9月8日(日)の2回、
野森林公園で開催することに決まりました。

協議会主催ですので多数の参加をお願いします。いずれも10:0
0~13:00の時間帯で実施することになりますが、参加可能と思
われる会員についてはご手数をかけますが、広報部の佐々木幸夫(0
03 札幌市白石区川下5条2丁目4-32) 電話011-875
-6602)にご連絡下さい。

野幌森林公園事務所の森林自然観
察会の協力について」

野幌森林公園事務所では、平成3年度も次のように森林観察会を計
画しています。

この催しの実施には協議会も協力することになりました。

◎ 四季の森林観察会

春、	平成3年5月12日(日)	9:30~14:30
夏、	" 8月4日(日)	"
秋、	" 10月20日(日)	"
冬、	平成4年3月1日(日)	"

◎ 月例観察会

北海道開拓記念館集合で、記念館周辺の自然を観察します。

平成3年4月11日(木)	10:00~12:00
" 7月11日(木)	"
" 11月14日(木)	"
" 12月12日(木)	"
平成4年1月9日(木)	"
" 1月13日(木)	"

これは現時点(案)です。正式に決定しましたら、次回の会報で
お知らせします。

詳細については北海道野幌森林公園事務所(公園管理部公園利用課)
〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道開拓記念館内
電話 011-898-0455(内線42番)に問い合わせ下さい。



◎ 平成2年度冬の森林観察会

冬の森林観察会が、平成3年3月10日(日)9:30~14:00にひらかれますので、参加協力をお願いします。

集合場所は、野幌森林公園大沢口(中央口)。9:30分までに集合し、大沢口(中央口)——大沢コース——大沢園地(昼食)——桂コース——大沢口(中央口)で解散する約3.5キロメートルのコースになります。

参加者は3月7日(木)までに、公園事務所に電話による申込が必要です。広報部佐々木に連絡下さい。



石狩高校の野鳥

札幌市 武田伸彦

室蘭東高校から、転勤して石狩高校に勤務するようになり9ヶ月程経ちました。

この間に学校周辺の環境もずいぶんと変わって来ました。一つは緑苑台パークタウン(約34戸)の造成で、野草がみられなくなったことです。もう一つは学校の側を流れる茨戸川沿いに道路(かてか厚田方面に通じる)ができ、更に川の護岸が進み水鳥がみられなくなったことです。ちなみに私の住む札幌北高の公宅の向かいもマンション建設中で手稲山が望めなくなってしまいました。草木・景観が損なわれることは残念です。

さてこの9ヶ月間に石狩高校での私の印象深い鳥との3つの出会いをお話しましょう。

最初は5月から6月頃に朝の通勤で学校に着いて車をおりかとき、オオジシギが急降下刷る時の羽ばたきの姿と音を見聞きしたことです。こりは私が白糠高校に勤務していたときに、よく訪れた馬主来(バシクル)沼で体験したものと同じでとても懐かしい気がしました。

2番目は夏、教室の窓を開けて授業をしていますと、ゲラ類が木をつくばしでつつく音がしばしば聞こえてくることです。底でしばし授業を中断し、生徒に言うのです。「こんなに自然に恵まれているところで勉強できるとは幸せなことだね。」ところが生徒は「通学に不便だし田舎なんだよ。」と言います。生徒の意見にも一理ありますが、情緒を解する生徒が少ないのは寂しいことです。

3番目はつい最近ですが、昨年12月21日の着ん身右日ですが、音楽の先生が「珍しい鳥がいるのだからなんというのだろうか?」というので4階の音楽室から眺めると茨戸川の岸になんとオオワシが1羽いました。今から6~7年前オジロワシとこの鳥を観たくて寒い2月に根室のノサップ岬まで写真を撮りにいったことがあります。特徴からみてオオワシに間違いありませんでした。これ又古い知人に会ったよう懐かしい気持ちを味わうことができました。今年も担任なので忙しいですが、今後更に学校周辺の自然に関心を向けようと思っています。

初めての出会い

札幌市

渡辺 観寿

猛烈な低気圧の発達で、台風並の風雨になる模様という天気予報で、実際に会が開かれるかどうか不安な気持ちで、11月10日の研修会に参加すべく恐る恐る地下鉄円山公園駅に出かけた。

第7回ボランティア・レンジャーとして研修を受けて以来、初めての地元での参加である。駅にはそれらしきグループが確かにいた。

まずは一安心。でも強い風、時々思い出したように降る雨、何としても寒い。しかし参加されている方々あまり天候の事など気にするふうもなく、又、意外に軽装であるのにびっくりする。男女半々ぐらい全体で15名程になろうか。この内、女性の方々が普通の外出着で参加されていた。改めて女性の耐寒性の強さに敬意を払う。こちらは悪天候でお集まり戴いたが今回は中止します、という言葉を楽しんでいたのだが、甘かった。

講師村野先生の先導で、予定どうりのコースを多少早めにまわる。並木ウォチング、生まれて初めての参加、街の中の条件の悪い場所に意外にも多くの樹木が生育している事に改めて驚く。中に幹のまわりすっかりアスファルトで固められたあの木、名前忘れましたが、その生命力の強さに深い感銘を受けた。

それにしても途中誰一人欠ける者もなく、むしろ女性軍が1名増えた。寒い中みんなよく歩く。それほど若いとはいえぬ面々、身支度も前述の通りごく普通のスタイル、その熱心さに引き込まれていく。ただ、まったくのビギナーということで何をどう質問してよいか手も足もでない。ひたすら木を見上げ、その葉を拾ってメモする。今までのゴミの落ち葉が、この研修では宝物のようになる。

私にとっては樹木の観察より、参加者を観察する方が勉強になる。いづれも何年もボランティア・レンジャーで研修を積んだ方々、野鳥の会の方々、野の草を愛でる方々等それぞれいろいろのグループが今回の研修会に集まっているという。どうりで皆さん足腰がしっかりしていらしゃる。

最終地点、円山公園に入ると、街路樹と遠つてのびのびと、人手のはいらぬ育ち方をしている木は、同じ種類のもので、異なった木の種類とみまぢがう。10月から11月にかけて八甲田から秋田、山形をまわってその紅葉と杉の巨大な育ち方に目を見張ったが、今回のように小さなフィールドを丹念に見回す事で半日、1日がすぐ暮れていく、自然のふところの深さに改めて感じいった次第。又、その機会を与えて下さった先輩の方々に心より感謝申し上げます。

(1990年11月)



来 来 来

野幌の霜柱

来 来 来

札幌市 大久保 公保子

アズキナシがまだ赤い実を、落とさずにいる。

小鳥達の大好きな酸味をおびた味だという。花は梨の花に似て、実は小豆と似ている。それでアズキナシ。小豆とそっくりの実を拾おうと近寄ってみると霜柱が赤い実を持ち上げている。

霜柱『細い氷の柱が密集して地面からのびたもので、地中の水が細かい土の粒子の間の隙間を毛細管作用で上がっていき、0℃の地面にとどいたとき凍ったもので、関東地方の赤土によく成長するのは、適当な毛細管が出来やすい性質の土で地表面が0℃以下くらいになる機会が多いためによくみられる。北海道などの寒冷地で、地中の氷が凍結して地面を持ち上げたり舗装道路にひび割れをつくったりするのは、凍上といい霜柱とはことなる』と辞典に記されている。

12月13日 朝6時の気温 +1.5℃ 天気 晴

12月12日 朝6時の気温 -5.9℃ 天気 晴

上記は、札幌の気温と天気ですが観測地点が気象台の庭なので野幌の森では、多分1～2℃低いでしょう。

霜柱は、我が家の夕食時の話題になった。

私は、小学生の頃、登校の時、道端にできた霜柱を、シャリ、シャリと音がするのが面白く友人達と潰した記憶がある。夫も、たくさん出来た霜柱を覚えていた。

楽しそうな夫婦の会話に、図鑑等でしか見たことがないという娘は少し不満そうな顔、歩道が出来て交通事故の心配がなくなり安心して子供を通学させているうちにいつのまにか、霜柱という冬のすばらしい自然の贈物のがあったことを忘れてしまっていた。

平成3年度のボランティア育成研修会に、夫は大雪国立公園で受講したいという。娘は、アポイ岳で受講したいという。私は、いまのところ指で数える位の草木の名前しか記憶していない。内心強敵現るの心境。

しかし、家族から友人達へと、自然を愛する心が伝われば良いのではないかと思う。第6回ボランティア育成研修会に参加して、多くのことを学び、楽しい友人関係が生まれました。

開拓の村のボランティアとして、また、ボランティア自然解説員活動を通し野幌の達人になろうと思っています。

「壊れた生態系は復元する 最新ドイツ流自然再生法 ビオトープ」

(帯広市売買川自然生態系の復元計画)

帯広市 太田 昇

(1) ビオトープの目標

① ビオトープとは(自然生態系創出)

ドイツなどで使われている言葉で、生態学的には「野生生物の生息空間」を意味する。

多種多様な動植物が生息する一定の自然空間をいう。

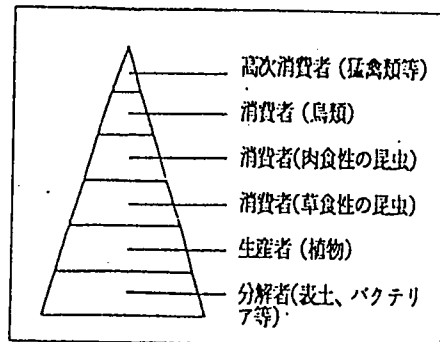
ドイツ語で、BIO(生命)TOP(場所)、つまり、野生動植物の棲息空間を意味するビオトープは、ドイツの自然環境作りの手法。

乱開発などで失われていく自然、そして、次第に少なくなる下位の小動物から上位の猛禽類に至る豊かな生態系を、人工的に池を掘り、ブッシュを配置し、樹木を植えることなどで復元する。

日本の場合、保護の対象が天然記念物や絶滅寸前の動物などに限られ、多様な生物の全体(生態系)には目がいていないのが現状だから、かなりレベルが違う。

② 自然を守るだけではなくて自然再生運動の輪を広げて

(サケの自然産卵、ホタルの住める川づくり等) いずれは生命のある河川、水生生物・小動物から猛禽類までの巨大な生態系ピラミッドを作るので夢です。



生態系ピラミッド 良質の自然とは生き物の種(遺伝子の種)が多い状態をさす。とくに猛禽類(タカ、フクロウ)はその豊かさの指標となる。

③ 生物はそれぞれ異なる「生存条件」をもつ。

多くの種に生存条件を与えるためには、その場所が多様な要素を備える必要がある。その基本となるのは地形の複雑さである。微環境の多様性「環境構造」の多様性を増加させる。そのためにも、多孔質環境「エコアップ」を多く作ることが必要。そして、水をどこでも人や動物が「む」事が出来る水質を保つ条件をつくること。

④ 人が水(川)から、はなれている。

小さい時から水が親しみ、川に関心をもつ人間を育てなければ、水がよごれ生物が死に人間そのものの存在が危うくなってもそれに気づく事が出来ない。(親水性)

(2) 生態系の現状評価 (杉山恵一静岡大教授)

① 多様性

どんな種類の生物が生活しているか? (生物の標本) の保存

② 現存量

どれだけの量が存在するか?

主要な樹木の投影図・群落断面図、コドラード法による草本類生育状況の調査、記録

③ 自然度

全生物相に含まれるその地域本来の生物の種の割合 (栽培種や飼育種とも同じ扱い)

④ 安定度

現存する生態系がどの程度安定してものであるかという判断 (最も安定度の高い生態系は極相に達した森林)

⑤ 主体的環境評価

環境が人々にどれだけ好感を与えているか。

その結果にもとづいて、将来そこに創りだされる自然生態系の具体的な計画が立てられなければならない。

(2) 自然生態系創出の基本

生態学、造園学、建築学、都市計画学、土木工学などの諸分野で蓄積されてきた知識が自然生態系創出という目的のために再検討され、新たな体として構築されなければならない。

(おびひろサケの会事務局長)



お知らせNO3

北海道保健環境部自然保護課で、新年度の自然観察に関わる計画の情報を提供してくれました。

自然観察の案内・解説することも大切ですが、一般の参加も意義があります。

◎ 自然教室

道民が自然とふれあい自然のしくみを学べる場の定着とボランティア・レンジャーの地域における活動の拡大を図るため「自然教室」を支庁単位に年1～2回開催し、自然保護思想の普及啓発を促進します。

◎ 自然に親しむつどい

支庁単位で4月29日から10月31日の間に開催されます。

自然に親しみながら、自然の仕組みや効用、あるいはその適正な利用の方法などについての知識と理解を深めて、自然を大切にする心をつちかう目的で実施するものです。

◎ 愛鳥週間

愛鳥週間にちなんで、各種団体が行事を催します。

これらの詳しい日程、場所などは各支庁経済部林務課自然保護係に問い合わせして下さい。



「インストラクターリーダー養成講座の開催」

北海道立林業試験場で平成3年5月21日から24日の4日間、インストラクターリーダー養成講座を開設します。

定員は20名。受講料は無料で遠隔地の方には同場の宿泊施設を1泊3食、2900円で利用できます。

講座のカリキュラムは別表のとおりで、参加者締切は4月上旬となり、先着順とするそうです。

会員の皆さんのうち、参加ご希望がありましたら正式の申込前に広報部佐々木あて、ご連絡下さい。

北海道立林業試験場は、079-01 美幌市光珠内東山、電話
01266-3-4164

※ 内容と日程は次のページをご覧ください。

(専修講座「インストラクター・リーダー養成」)

講座内容と日程

日	内 容 (時 間)
第 1 日	開講式、オリエンテーション (13:00~13:20)
	《室内講義》
	1 森林の生態 2 北海道に分布する主な樹種と特性 (13:30~16:40) 3 天然林、人工林の成り立ちと扱い方
	《場内見学》
4 道立林業試験場の研究概要と施設内容 (16:50~17:15)	
第 2 日	《室内講義》
	5 森林の公益的機能 6 世界・日本・北海道の森林 (9:00~12:00)
	《室内・屋外実習》(場、実験林・樹木園)
7 森の中で遊びながら学ぶ (1) 森の遊び{Quiz And Game} (13:00~17:15) (2) 昆虫、木の葉などの標本づくり (3) 木の実や枝などを使った楽しい工作	
第 3 日	《現地実習》(場、実験林・樹木園)
8 森のなかまたち (1) 地森林の取扱い(一部現地実習をふまえて) (9:00~17:15) 7. 良い木材を生産しよう [野外で昼食] 1. 葉に使用できる木 (次ページに続く)	

日	内 容 (時 間)
第 3 日	9、花が美しい木 (2) いろいろな山野草 (3) 森の動物、鳥、昆虫など (9:00~17:15) 9 森から採れるもの [野外で昼食] (1) いろいろな野生のキノコを楽しむ (2) いろいろな山菜を楽しむ
第 4 日	《室内講義》 10 北海道の野生動物のいろいろ (9:00~11:30) 11 野鳥のいろいろ ----- 閉 講 式 (11:40~12:00)

編 集 後 記

16号をお届け致します。寄せられた原稿には「湾岸戦争」に関連した内容のものもありました。

「壊すのは何時でもできる。しかし、今まで大切にしてきたものが壊れた時の事を考えてみなさい。もっと慎重な行動をとりなさい」と私を一喝した大先輩がおられた。

自然に対しても人間関係においても私は自重しなければいけないと改めて思った。

(山上)